



できる範囲を超えた厳しい状況に置かれています。国、県、市などの景気対策に期待するところですが、この難局に対しての率直なご意見や会員企業への支援策についてお考えをお聞かせください。

**神澤**：企業数の99.7%、雇用の約70%を担っている中小企業の活力は、わが国の経済成長の源泉であり、その成長力と活力強化は喫緊の課題であります。中小企業支援対策を最優先事項として、きめ細かな諸政策を遅滞なく着実に強力に推進していただきたい。企業の金融支援や雇用問題、税制、地域経済活性化など国、県、市・関係機関との連携を一層強化し、会員企業の負託に<sup>まいしん</sup>応えるべく、邁進していききたいと思います。



神澤副会頭

**島**：日本の経済は基本的に欧米への輸出で成り立っていますが、それらの国々の経済がまだ動き出しておりません。最近では、中国やアジア諸国での需要が増えていると聞いていますが、日本国内では従来品以上の品質、例えば、使いやすい、便利、きれいといったものの開発や新しいサービスの開発が必要だと思います。そういう分野に注力すれば新しい需要と評価が生まれ、国内でも売れていくと思っております。従来品で生活は



島副会頭

満たされており、同等のものはないと思います。

**花村**：日本経済が世界で最も大きく落ち込んだのは輸出依存度が高過ぎたためです。中でもアメリカへの依存度が相対的に高く、実体経済に大きな影響を受けました。自動車などは下請け企業を多く抱えるすそ野の広い産業であり、長野県内の中小企業にも多大な影響を及ぼしました。

世界の情勢が目まぐるしく変わる経済環境の中では、常に危機感を持って経営することが求められます。内向きや後向きに思考せず、まず足元の需要の変化に対応し、都度修正していくことが必要です。経済の中心は確実に中国をはじめとした東アジアへ移っています。大量輸出した生産体制からの方向転換が求められます。

**池田**：商工業界が一致団結し、力を合わせなくてはならない。健康福祉はもとより、市民生活向上のため、すべてに気配りをする必要がある。不況が長引けば財政での収入減は当然のこと、「入を計って出を制する」知恵が大事になる。

人材の育成はこうした時こそ重要だと考える。工場誘致も重要だが「人材誘致」も十分考慮する必要がある。会議所の会員企業への支援サービスの仕分け

を行い、集約しなくてはならない時期だと思う。地域の課題解決に向けた議論や、今後を見据えた中長期の行動計画の策定とともに、行政や関係機関に政策提言を積極的に行うことが重要な時だと考えます。会議所内でのプロジェクトチームのスタートもそこにあると思っています。

## アジア市場

**胡桃澤**：中国を中心とした好調なアジア市場への輸出が景気下げ止まりの大きな要因であり、国内市場をターゲットとしている地域企業であっても、国際化、グローバル化への対応と持続的なアジア市場への販路開拓が急務になっています。どのような支援、対応が必要でしょうか。

**神澤**：わが国の貿易総額に占める最大の国および地域別シェアは、中国（約20%）、アジア（50%）であります。物、人、情報に関するアジアとの相関関係が、加速度的に強まっております。世界経済の成長の鍵は、アジアにあると言っても過言ではありません。地域情報のデジタル化と国内外への発信の拡充・活用は、企業経営の効率化と変革をもたらし、グローバル化の課題を解決する一つの有効なツールとなる。この一層の強化が必要と考えます。

## プレミアム商品券

**胡桃澤**：昨年、当所では緊急経済対策の一環として、松本市の支援を得て3億3000万円分の「プレミアム商品券」を発行し

ました。効果や消費者動向、今後の展開などについてお聞かせください。

**井上：**一般小売店（大型店除く）での利用が549事業所、2億5000万円強（75.8%）あり、短期間に地元の小売店で多額の消費につながった。家電品、衣料品、自動車、住宅設備、旅行などの高級品、ぜいたく品の利用も多く、経済波及効果は大きかった。利用金額にバラつきはあるものの、幅広い地域で利用された。

エコ減税やエコポイントなどとの相乗効果もあり、消費拡大の呼び水として大きな役割を果たしたと考えております。第2回目の発行について、このような厳しい経済状況下において関係機関と調整しながら、松本市の支援を得て、年度内の発行を目指し準備を進めております。とにかく松本市内で資金が動いて、大きな経済効果が得られることを期待しています。

**島：**市民の皆さんにも高い評価を得られたと思います。しかし、実際には大型店に偏り過ぎたのではないのでしょうか。中小の小売店の品ぞろえが、市民からすると関心外の物が多かったのではないかと思われます。仕入れ先を通じて、そのメーカーのほかの商品で、何がよく売れているか調査してみたらどうでしょうか。新しい分野の開発にもつながるのではないのでしょうか。

## 工業の振興

**胡桃澤：**「北アルプスものづくりネットワーク」や「まつもと広域工業ものづくりフェア」、「工業支援センターの開設」な

ど、松本市工業ビジョンの具現化に向けた事業が着々と展開されておりますが、今後の展開はどうなるでしょうか。

**花村：**北アルプスものづくりネットワークは、松本市のみならず塩尻市、安曇野市の製造業者も加わり、35社で活動しています。自らの力で工業振興を目指し、毎月会員事業所を順次訪問して各社の持つ知識や技術を理解し、情報交換しています。福祉機器の開発を目指すプロジェ



花村副会頭

クトも生まれ、分科会活動が開始されました。

まつもと工業支援センターは昨年4月に本格的に開所しました。総勢9人でコーディネート活動を始め、6月には中小企業地域資源活用プログラム事業で1事業所、農商工連携事業で1事業所が、国から認定を受け、成果も出てきました。ネットワークと工業支援センターが車の両輪のように補完し合い、企業を支援してまいります。

## 商業ビジョン

**胡桃澤：**「中心市街地のにぎわい創出」の取り組みとして、一昨年に当所は松本市の支援を得て「商業ビジョン」を策定しました。昨年度はその具現化に向けて取り組んでまいりました

が、今後の取り組み等についてお考えをお聞かせください。

**池田：**商業ビジョンは「個店の魅力の向上」「既存商業者が自らの商売の魅力を高めるための支援」など、6つの基本目標から構成されています。本年度は、商店街活性化・繁盛店づくりのための研修会を開き、多くの事業主の方々に個店の経営力強化、魅力ある個店づくりに必要な知識・ノウハウを習得していただいております。

今後もできることから一歩一歩取り組んでまいります。現場で闘っている商業者のためにもビジョンを具現化したい。

## 観光客の誘致

**胡桃澤：**昨年度は長野商工会議所との連携事業で、善光寺御開帳の参拝客の松本への回遊など多大な成果を上げることができた。今後の広域観光連携や地域観光の振興についてどのように取り組むことが望ましいでしょうか。

**井上：**善光寺御開帳の参拝客が松本に回遊してもらえるよう、長野商工会議所と連携して、福岡、札幌など全国各地への誘致活動を展開した。期間中は善光寺の門前や長野駅に職員を派遣し、松本の観光PRをし、専用ホームページを開設した。多くの参拝客に松本を訪れていただき、大きな成果があったと思っています。

今年は、4月からの諏訪の御柱祭、10月からのJR東日本のデスティネーションキャンペーンに各関係機関、団体と連携し観光客の誘致に努力したいと考

えています。また、3回目になる長野・松本政経懇談会を4月に松本で開催する予定であり、さらなる連携に期待をしているところです。

## 雇用問題

**胡桃澤**：製造業派遣や登録型派遣の原則禁止および最低賃金の引き上げなどが予定されています。企業を維持していく上では、人材育成・確保が必要であり、雇用のミスマッチの解消や若年者の就業能力の向上等についてご意見をお願いします。

**神澤**：人材の育成、確保は、企業の健全維持、発展のための重要課題であります。雇用の安定なくして経済の真の新生はあり得ません。時代に合った、変化する社会に適合した若年者の就業能力の向上は、雇用のミスマッチ解消の有力な手段です。雇用・能力開発機構などを通じた若者の就業支援の一層の強化、ならびに一昨年当所に開設された長野県地域ジョブ・カードセンター利用の、普及啓発活動をさらに強力に推進する必要があります。

## 危機管理

**胡桃澤**：感染が拡大している新型コロナウイルスが企業経営に及ぼす影響は計り知れないものがあります。お客さまや従業員、家族の安全確保と事業継続のための対策や準備、危機管理マニュアル等についてお考えをお聞かせください。

**島**：自然災害や新型コロナウイルスの集団感染など緊急事態が

発生した場合、企業がその影響を最小限にとどめ、一刻も早い事業の継続・再開を図るための仕組みを皆で決めておくことが大切であり、事業継続計画（BCP）を策定しておくことが最も重要であると考えています。事業継続計画の策定により取引先からの信頼を得ることができるとともに、情報を社内で共有することにより、企業と従業員およびその家族を守ることができると考えます。

## 情報技術の活用

**胡桃澤**：持続的に安定した企業経営をするためには、高度なIT（情報技術）の活用によって経営戦略を遂行し、生産性を高める必要があります。中小企業はIT経営にどのような対応をしていく必要があるでしょうか。

**花村**：経営の効率化や生産性の向上を図る上で、ITの活用は必要不可欠です。経済危機の影響で、売り上げの拡大を目指す戦略的なIT投資は継続される一方、セキュリティ強化とコンプライアンス対策に関連した投資は減少しています。

重要なデータのバックアップを定期的に変更したり、アクセスを制限したりするなど、運用面でのルールを構築していく必要があります。松本商工会議所は、全国の会議所と共通する基幹業務システムを設計しており、会員サービス事業として情報化支援を引き続き推進してまいります。

## CO<sub>2</sub>の削減

**胡桃澤**：わが国は、2020年度までに温室効果ガス排出量を1990年比で25%削減を目標に掲げています。二酸化炭素による影響は、刻々と進行しており、この状況から地域企業も無関係であることはできない。今後の企業への影響や対応策はどのようになるのでしょうか。

**池田**：政府のCO<sub>2</sub>削減目標は国内の生産活動や雇用に大きな影響を及ぼすと懸念されます。環境と経済が両立する対策の実現に向け、関係機関の努力を期待しています。



池田副会頭

日本で最も日照時間が長いといわれる松本で、太陽光発電が国や県、市の事業として取り上げられないのはなぜか。風力発電もしかりで、不思議でならない。一般家庭で太陽光発電機を設置すれば補助金が出るが、中小企業がやっても補助制度はない。現在、考えられている削減方法だけでは25%の削減は困難であろうと考えます。国策として真剣に論議されることを期待したい。

## 空路の存続

**胡桃澤**：日本航空が信州まつもと空港発着便の札幌、大阪、福

岡の3路線から平成22年6月以降に撤退する方針を示しています。当所は地元経済界に要請して現路線存続対策会議を発足させていますが、今後どのような活動を展開していかれるのでしょうか。

**井上：**対策会議では日本航空や長野県知事などへの存続要望や搭乗率の向上策を検討してまいりました。今後は、長野県などが進めているフジドリームエアラインズ（静岡県）や関係機関との交渉に対し、全面的なバックアップを行うこと。また、日航の撤退後、切れ間なく札幌、福岡線を就航していただくことは大変ありがたいことで、従来にも増した利用率アップを県・関係市町村、関係団体と連携して実効性のある具体的な活動を進めてまいります。多くの皆さま方に信州まつもと空港からの定期路線をご利用いただくことが、存続へつながるものと考えています。ご理解とご支援を切にお願い申し上げます。

## 商工会議所の在り方

**胡桃澤：**経済社会が大きく変化する中で、地域を代表する総合経済団体としての商工会議所の存在意義を踏まえ、果たすべき役割、事業運営、組織運営・財政基盤などについてお考えをお聞かせください。

**神澤：**最悪期を脱した日本経済は、緩やかな回復傾向が続いていますが、中小企業は依然として厳しい環境下におかれています。こういう時にこそ、創立100周年記念の「地域活性化マスタープランづくり宣言」で策定さ

れた「アクションプラン」を、着実に実現していく必要があります。それが最大の対応策になると考えます。従来の延長線上ではなく、新たな視点、思考、行動をもって対処していきたいと思えます。

**島：**県内は言うに及ばず、他県の商工会議所の会員で優良な企業があれば、その分野の当所の会員の皆さんで見学し、勉強会を開いてみたらどうでしょうか。松本とは違った「なるほど」を感じてくることできるかも知れません。当所と違う環境を体験する場を積極的に提供していくことも大切な事業だと考えますし、そのような展開を続けていけば結果的に新しい会員を迎え入れることにもつながると思います。

**花村：**会員や市民から信頼される商工会議所、顔の見える商工会議所として、地域活性化マスタープランづくり宣言に掲げられた目標の実現に向け努力します。また、昨年より会議所の役割や機能、組織や運営の課題を整理して、再活性化計画を策定する検討会がスタートしました。引き続き皆さまのご意見をしっかりと伺いながら、現状の閉塞感を改善してまいりたい。

**池田：**戦後からの松本における諸団体について考える時期到来かなと思うことがある。数多くの団体が誕生したり、消滅したりしながら、時流の中でそれぞれの役割を十分に果たしてきた。より素晴らしいコミュニティを形成していく上で、商工会議所の存在価値、総合経済団体の在り方について、時には時間をかけても議論することも大

事なことではないかと考えます。

## 未来への指針

**胡桃澤：**今後の事業活動・運営方針などをお伺いし、座談会のまとめとしたいと考えていますが、いかがでしょうか。

**井上：**副会頭さん方のそれぞれのご意見のとおりだと思っております。不況対策として、会員企業の皆さまの要望や相談に中小企業の目線に立って、精いっぱい努力をしております。また、当所は「会員主役」を掲げ、地域の中小企業のための支援事業を数多く展開しております。商工会議所の事業の広報活動に力を入れ、もっと多くの会員や地域の中小企業に利用していただく努力が大切だと思っております。今年も気持ちを新たに頑張っております。



胡桃澤専務

**胡桃澤：**ありがとうございます。今後の商工会議所の進むべき方向について正副会頭にお話しいただきました。地域を代表する総合経済団体として地域経済の活性化、中小企業の発展を目指して活動してまいりたいと思っております。商工業者の皆さまにとって、本年が良い年になりますようにご祈念申し上げます。座談会を閉じさせていただきます。